

たんぽぽくんとりんごくん

原作 池原由起夫
作 藤原 玄洋

2001年改訂稿

● cast

お姉さん(人間の俳優)	原作	池原由起夫
コン吉 (キツネ)	作	藤原 玄洋
タン平 (タヌキ)	演出	
カラス	音楽	
	人形美術	
	舞台美術	
	音響効果	
	照明	
	舞台監督	
	制作	

この脚本を使うときはご連絡ください。

人形劇GENクリニック 藤原玄洋

eMail= genyo2@nifty.com

© 1976, 2001 FUJIWARA GenYo

----- 舞台は春。ある野原のできごと。

上・下パネルが開く。

立木パネルが、上・下に立っている。ケコミには、上手前、下手奥に草むら。ケコミの前の床、上手よりに切株。

キツネのコン吉、上手草むらから首を出す。

コン吉 ああーあ、たいくつ、たいくつ、おもしろくねえなー。何か、お

もしろいことねえかなー。(寝ころぶ) ああーあ。

お姉さん(声) ララ、ランランラー。

コン吉 あれー、誰か来たぞー。

----- 上手パネルの上に登って、奥の方をうかがう。

コン吉 あーっ、誰だろう。(降りてきて、考える) よーし、いいこと考

えた。エへへへっ。そーれ。

----- コン吉、宙返りをして、カラスに化けて、下手パネルの上にとまる。

お姉さん(声) ララ、ランランラー。

----- 麦わら帽子のお姉さん、上手よりケコミ前に、歌いながら登場。お弁当のバスケットと、スケッチブックを持っている。

お姉さん (伸びをしながら) あっ、あーあー。気持ちいいわあ。空気が

おいしい。こういう所で食べるお弁当って、おいしいんだあ。

コン吉 アッホー、アッホー。

お姉さん (ふり返って) わー、カラス。かわいいわー。でも、アッホーなんて失礼ねっ。

----- カラス、ケコミに飛び降りて来て、お姉さんの頭をつつく。

お姉さん あいたたたっ。

カラス アッホー、アッホー。

と、飛び去り、上手パネルの上で鳴く。

お姉さん (観客に) みんな、しーっ。あのカラスつかまえて、うんとこらしめてやるからね。

と、切り株に荷物を置いて、そーっその後向きのまま、カラスに近より、パツふり向いて、カラスをつかまえる。

カラス アッホー。

と、下手パネル上にとまる。

お姉さん、腰をかがめて、かくれるようにカラスに近づいて、カラスにとびついてつかまえる。

カラス (逃げる) アッホー。(ケコミ中央で) カツカツカ。

と、知らない顔で鳴いている。

お姉さん (観客に) しーっ。

かくれるように、しゃがみながら、カラスに近づき、つかまえる。カラス、上手パネルにとんで逃げる。

お姉さん うーん。よーし。

と、いって帽子を脱いで、帽子をかまえて、カラスをつかまえようと近づく。ぱっとカラスの上に帽子をかぶせる。

カラスは、下手、パネル上に逃げ、とまって、お姉さんの様子をうかがう。

お姉さん よーし、今度はつかまえたわー。

そーと、帽子を開けて見るが、カラスは、いない。

カラス、とんできて、お姉さんの頭をつつきまくる。

カラス アッホー、アッホー。

お姉さん あいたたた。この、いたずらガラスめー。

カラス アッホー、アッホー。

カラス、逃げまわる。お姉さん、必死に追いかける。

カラス、下手、パネルのかけに逃げて行く。

お姉さん こらー、待てー。

お姉さんも、後を追いかけて退場。

しばらくして、カラス再び戻って来る。ケコミ中央の上でキツネに戻る。

コン吉 アツハツハツハツハツハー、おもしろい。ヒツヒツヒー、クツク

ツクー。

コン吉、笑いつづける。

そこに、タヌキのタン平、下手よりあらわれる。

コン吉 ハツハツハー、クツクツクー。

タン平 ねえねえ、コン吉くん。どうしたんだいー。

何がそんなにおかしいんだい。

コン吉 ハツハツハー、クツクツクー。

タン平 どうしたの、ほんとうに。

コン吉 ハツハツハー、お前にはできないことだよ。

ハツハー。

タン平 なんだい、できないことって。

コン吉 ハツハツハー、お前、化けるのがへったくそだからな。

タン平 なっ、何いってんだい。ボクだって、ボクだって、ちゃあんと化
けられるよ。

コン吉 お前は、ダメだ。

タン平 そんなことないよー。

コン吉 いいや、お前はダメだ。

タン平 よーし、見てろお。いち、にーの、さーん。

----- タン平、焼きいもに化ける。

コン吉 こりや、焼きいもかい？

タン平 そうだよ。

コン吉 へー、おいしそうだなあ。（ジロジロながめまわす）

タン平 やだよー、へんな眼つきで見るなよ。

----- 少し逃げる。

コン吉 うん、お前にしては、上できだ。（いもをつかまえて、かじる）

タン平 いたた、いやだよ、いたた、よせよ。いたいよー。

コン吉 （かまわず）へへ、おいしいぞ、これは、ムシヤムシヤ。

タン平 よせよー。いたいよ、よせつたら。

----- と、タヌキに戻る。

コン吉 ちえっ、何だよー。おいもだったら、いもらしくちゃんと食べら

れるよ。

タン平 いやだよ、いたいよ。かじつちや。

コン吉 化けるといのは、いいか、こういうふうにやるんだ。見てろー、
いーち、にのさーん。

----- きれいな花に化ける。

タン平 ヘエー、すごいなー、きれいだなー。

----- きれいなトライアングルの音。ちょうが一匹、二匹と、とんできてとま
る。

タン平 わー、すごい、すごい。

----- コン吉、キツネに戻る。ちょうはとんで行く。

コン吉 どうだい、へん。（と、胸をはる）

タン平 うん、すごい。じゃ、もう一度化けるからね。

大きなリンゴに化ける。しっっぽがついている。

コン吉 おい、これは何だ。(しっぽをくすぐり) コチヨ、コチヨ。

タン平 よせよ、くすぐりたいよー。

タヌキに戻る。

タン平 もう一度化けるよ。いいかい？

化ける。今度は成功。

コン吉 へへ、今度もおいしそうなリンゴだなあ。へっへっへ。

と、リンゴに近づく。リンゴ逃げる。

コン吉 おい、おい、逃げるな、にげるなってば。

タン平 いやだよー、近づくなよー。(後ずさりをする)

コン吉 (追いかけて、しばらくあつて) へっへっ、そら、つかまえた。

リンゴをかじる。

タン平 いたいよー、いやだよー。

コン吉 おいしい、おいしい。

タン平 いたいよー、よしとくれよー。

たまらずタヌキに戻る。

タン平 やだなー、すぐにかじるんだからー。ボク、もう化けるのやめた
あ。

コン吉 だって、お前が食べるもんばかりに化けるからだ。

タン平 ひどいよー。すぐかじるんだから。

コン吉 しーっ。誰か来る。かくれる。

2匹、舞台奥下手奥の草むらにかくれる。

お姉さんさん、下手より登場。

お姉さん　とうとう、いたずらガラスに逃げられちゃったわ。今度見つけ
たら、つかまえてやるからー。

あんまり走ったので、お腹ペコペコ。あつ、私のお弁当大丈夫か
しら。

探す。バスケットを見つけ、

お姉さん　あつた、あつた。

まわりを見まわし、切りかぶに腰かけ、バスケットを開けてのぞきこみ、
ランチの用意。

コン吉、顔を出す。

コン吉　（声をしのぼせ）おい、タン平。

タン平、顔を出す。

コン吉　おい、タン平。カラスに化ける。

コン吉ひっこむ、タン平、ケコミ中央でカラスに化ける。

そして、お姉さんの所にとんで行く。

タン平　カアー。（お姉さんの方にとんでいく）

お姉さん　あつ。また、あのカラス。今度は許さないから。

バスケットを上手ケコミ上に置いて、カラスを追いかける。

タン平　カアー。カアー。（逃げまわる）

追っかけっこをしているが、下手の方にカラス逃げて行く。お姉さんも
追いかけて退場。

コン吉、草むらから首を出し。

コン吉　へっへっへっ。うまく行った。

草むらから出てきて、バスケットに近づく。

コン吉 これはいただき、いただきっと。

バスケットをケコミ中央に引っ張ってくる。

コン吉 さて、中身はなんだろうかなあ。

バスケットを開け、中からおむすびの包みを取り出し、中身をひろげる。

コン吉 ワー。おむすびー。おいしそー。えーと、いち、にー、さんと。

3コあるぞー。タン平くんと分けなくちゃね。2人は友達なんでもんな。

(おにぎりの左端から)これがタン平くんの分、これがボクの方、これタン平くん、これボク……。

(4つ目の、おにぎりのないところをさして)あれ、おかし。もう一度。

これタン平くん、これコン吉くん、これタン平、これ……。あれ、おかしいなあ。ボクの方がないなあ。(考える)

あっそうか。よし、これコン吉くん、これタン平くん、これコン吉くん、よし、これでいいんだ。

(下手をのぞいて)タン平のやつ遅いなあ。お腹ペコペコなのにー。うん、タン平くんのは残しておいて、先、食べちゃおうと。

まず、このコン吉くんの分と、ムシャムシャ。あーおいしい。あ、これシャケだー。モグモグ。

おにぎり2コになる。

コン吉 えー、これがボクの方、これタン平くんの分。

これはボクの方だから、食べよと。ムシャムシャ。あー、こんどはオカカ。(観客に)オカカって知ってる？ かつおぶしのこと。モグモグ、あー、おいしかった。

おにぎりは1コだけ残っている。

コン吉 これは、タン平くんの――友達の方だから残しておかなくちゃね。

食べちゃだめなの。でもおいしそう。(おにぎりを持ってうろうろしながら)これはタン平くんの方だから、食べられないのよねー、食べちゃダメ。でもおいしそう。今度は中味は何かなあ。あー、食べたいなあ。

----- おにぎり落とす。

コン吉

あー。落ちちゃったー。

(ひろう) あーあー、こんなに土がついちちゃってー。(土を手ではらう)落ちないなあ。タン平くん、おこるだろうなあ。

(と違って軽く吹く)フッフッフッ。フッフッフー。(少し強く)とれないなあ。フッフッフー。

(おにぎりを見まわしてから、思いきり息を使って)ブツブツブツブー。ブーブー。 (つばきをとばして吹く) あっ、きれいにとれたー。

でも、(おにぎりを見まわして)ボクのつばでベトベトお。タン平くんおこるだろうなあ。こんなつばでベトベトのおにぎりを、友達

のタン平くんに食べさせちゃあ気の毒だ。しかたがない、ボクが食べてやろう。アムツ。うん、おいしい。あつ梅干しかあ、モグモグ、あつ種だ。ブツ(種を飛ばす)モグモグ。あー、お腹パンパンだあ。ゲッブー。

----- コン吉、寝っころがる。イビキをかいて眠ってしまう。

カラスになったタン平戻って来る。

タン平、タヌキに戻る。

タン平

おーい、コン吉くん、ボクのお弁当はー。(バスケットの中をのぞく)

ねえ、コン吉くん、ボクの食べる分は？

コン吉

うーん、ゲッブー。

タン平

うーんじゃないよ。ボクの分は？

コン吉

ない。

タン平

ないって、どうしてないの。

コン吉 ない。

タン平 ないじゃわかんない。ボクの分。

コン吉 しつこなあ。あのね、バスケットの中には、おにぎりがあったの。

タン平 おにぎり、すごい。ボクの分は。

コン吉 それでね、きみとボクの分を半分ずつ分けたの。

タン平 だから、ボクの分は？

コン吉 うるさいなあ、最後まで聞きなよ。今話してるんだから。

タン平 うん。

コン吉 それでボクの分、先に食べちゃったの。

タン平 うん、うん。

コン吉 それでね、きみの分はちゃんとボクが持っていてあげたの。

タン平 うん、うん。

コン吉 そうしたらね、土の上に落っこしちやっただの。

タン平 えーっ。ひどいよお。

コン吉 うるさいなあ、最後まで聞けよ。それで、フッフツて、吹いて土

をおとそうとしたら、つばがベトベトについちゃったの。こんなきたないおにぎりを、きみに食べさせるわけにはいかないだろう。だからボク、食べてあげたの。

タン平 えーっ、ひどいよ、ひどいよー。ボクのおにぎりどうしてくれるの。

コン吉 だって食べちゃったもんはしょうがないよ。

タン平 ひどいよ、ひどいよー。出せ出せ、おにぎり。

コン吉 出せって……。 (はき出すふりをして) オエツ、オエツ。 (間) 出ないよ。

タン平 ひどいよ、どうするんだよ。

お姉さんの声 こらーっ。

コン吉 あ、またこっちに追いかけて来たぞ。どうしよう。 (うろろう逃げ
る)

タン平 どうしよう。そうだ、よし。

ねえ、コン吉くん、早くお地藏さんに化けろよ。ボクがまたカラ

スに化けて、おいはらってやるから。

コン吉　　そ、そうかい、じゃあ化けるよ。

コン吉、化ける。地蔵の頭にキツネの耳。

タン平　　ハツハツハ、コン平。耳、みみ。

コン吉　　えーっ。

キツネに戻ってまた地蔵に化ける。

タン平もカラスに化けて、地蔵の頭にとまる。

お姉さん、登場。

タン平　　こらーっ、ハアハア。どこにいったのー。あ、あんなところに。

パネルのかけから棒きれを探してきて、ねらいをさだめてカラスを、横からなぐる。が、カラスはすばやく上手パネルに逃げる。

棒は、お地蔵さまの頭に命中。

コン吉　　うーん。(地蔵たおれる)

タン平　　カーカーカー、(カラス退場、お姉さん追いかける)

地蔵、キツネに戻る。

コン吉　　あいててて。

キツネほうほうのていで、上手に逃げていく。

お姉さん、戻って来る。

お姉さん　　まあ、キツネのいたずらだったのね。(あたりを見回し、バスケットをひろう) あーあすっかり食べられてしまったわ。(中を観客に見せる) しかたがない。今日は帰りましょう。(スケッチブックを持って、観客に向かって) ねえ、皆さん、皆さんもピクニックに行ったら、いたずらギツネに気を付けてね。じゃあバイバイ。

音楽。

お姉さん、上手に退場。

パネル、閉じる。

あとがき

藤原玄洋

この脚本は、一九七一年、岡山の人形劇場たけのこの創立公演で上演した私の「化けくらべ」と、それ以前から上演していた池原由起夫さんの「キツネとカラス」という人形劇を組合わせて作った作品です。

当時、私は千代田工科芸術専門学校人形劇ゼミの講師をしていて、二年生の学外移動公演のために、池原さんの許可をもらって書いたものです。今回、上演しやすいうちに、ト書きを加えて、少し書き直しました。

池原さんは口立てで作品を作ったので、台本が残っていません。私が記憶を元に再構成をしたのです。池原夫妻の演じる「キツネとカラス」は、とても好きな作品です。ですから、「キツネとカラス」からとった部分は、なるべくそのまま文字に置き換えたつもりです。

コン吉くんが、一人でおむすびを全部食べてしまうところなどは、リアリティがあり、子どもたちは発泡スチロールでできた、おむすびを、ホンモノと実感するのではないのでしょうか？ ちよっと、下品かもしれないませんが、子どもたちの感覚にうったえることができれば、タン平くんとコン吉くんの世界が、子どもたちの心の中に、しっかりと実感できるでしょう。